

たくましく かしく すすんでやさしく
～自分の考えを基に人と関わり、価値あるものを創造していく子供の育成～

《 アンケート結果からの考察 》

昨年度に比べ、児童が7項目、保護者が12項目、教職員が6項目のマイナス評価となりました。特に、①～③に関しては児童・保護者ともに全てがマイナスとなっています。数値的には、半数以上が0.1ポイント以下のマイナスのため誤差の範囲であると考えます。しかしながら、0.2ポイント以上マイナスとなっている項目も多数あるため、結果を真摯に受け止め次年度の改善に努めてまいります。

その中で「⑩ 思いやりの気持ち・優しく接する」「⑬学校のたのしさ」に関しては、三者すべてが昨年度に比べ数値が高くなっています。特に「学校のたのしさ」については児童の評価が3.81と全ての項目の中で一番高くなっており、項目が加わった令和3年度以降で最も高い数値となっております。

「学校が楽しい」と感じる要因の一つに「友人関係の充実」が考えられます。「⑩思いやりの気持ち」の数値が高くなっているように、日頃からお互いに思いやりの気持ちを持ち学校生活を送っていることの現れであり、ニコワク活動による異学年交流や道徳学習の充実などの成果であると考えます。

また、今年度は「対話」に力を入れた授業や活動を多く実践してきました。対話を通して考えを深める学習を取り入れることはもちろんのこと、朝学習（ちりつもタイム）では①テーマトーク（話す・聞く活動）②ピブリオバトル（読む、話す・聞く活動）③シャッフル読み聞かせ（読む活動）④俳句づくり（書く活動）を繰り返し行い、多方面から働きかけをすることで対話能力の育成に取り組んできました。

対話やコミュニケーションは、単なる情報の伝達だけではなく「心のつながり」を補完する重要な手段であり、本校の児童にとって最も必要不可欠な資質・能力の一つであると考えます。対話能力の向上が「学校の楽しさ」「思いやりの気持ち・優しく接する」の高評価につながった一つの要因なのではないかと考えます。

今年度も「投げ投げチャレンジ」や「マット運動週間」、「なわとび週間」などの学校独自の体育的な活動だけでなく、「かけっこ教室」「マリーンズベースボールチャレンジ」「ジェフサッカーお届け隊」など外部講師を招いた体育的な出前授業も多く実施しました。次年度も、子供たちが進んで、楽しく運動に参加できるよう工夫して取り組んでまいります。

「⑤ 家で読書に取り組む」は、保護者の評価が最も低い結果となりました。全国的な読書時間の低下はスマホやSNSが影響していると考えられており、ある調査では、スマホの使用時間と読書時間が反比例しているという結果も出ています。本校では、昨年度に引き続き、子供たちが本に親しめるよう「ピブリオバトル」や先生方による「シャッフル読み聞かせ」、「みどり文庫」や「みのりの丘」による定期的な読み聞かせを行い、楽しんで本に触れる機会を多く取り入れました。今後も学校での取り組みを継続するとともに家庭とも連携を図り、より一層読書に親しめるような活動について考え、実践してまいります。